

令和3年度 埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム後期（オンライン） 中間レポート(2)

後期メンバー 奥田 寛子

第2回中間レポートとなる今回は、4月9日にフィンドレー大学で実施されたシンポジウムでの成果発表までの講義の内容と、ペアとの交流、シンポジウム発表の当日の様子をご報告します。

1. 講義の内容

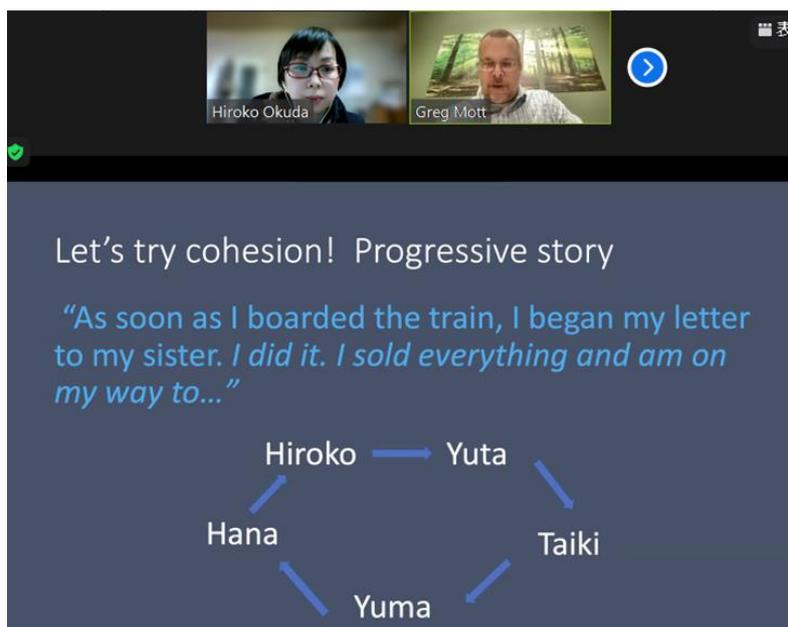
約10回の講義のうち、前半はプレゼンテーションへの心構えや知識に関するものです。具体的には発表する際の視線の向け方やジェスチャー、マナーや発表に向けての練習方法などでした。講義後半は、発表の内容に関するもので、論理的に発表するための文章の組み立て方や、単語の選び方などです。また、スライドの作り方についての講義もあり、多くのNG事例と共に、見やすく、説得力のあるスライドにするためのポイントを理解し、皆で確認しました。講義後半は実践編で、発表内容の確認やスライドの作成、リハーサルを行いました。

全ての講義を通して感じたのは、Mott先生が、私たちの発表に向けた不安を払拭すること、我々が講義の内容を理解し実践出来るよう、具体的な話をするように徹して下さったことです。様々な視点から、発表への不安や疑問を述べる場面があり、それらを解決する筋立てとなっていました。お陰で、英語でのプレゼンテーションへの心理的抵抗も下がり、またプレゼンテーションをよりよくするための沢山の気づきを得ることが出来ました。

● 授業の様子をご紹介します

2月下旬の講義より、Cohesion（結束性：文と文の意味的なつながり）についての学習。

最初に動画にて概略を理解、先生の説明により理解を深化し、アクティビティ（1人1文ずつ文をつなげて面白い話を作る。）を通じて、Cohesionの重要性を習得しました。



The screenshot shows a Zoom meeting interface. At the top, there are two video thumbnails: Hiroko Okuda on the left and Greg Mott on the right. Below the thumbnails is a slide with the following content:

Let's try cohesion! Progressive story

"As soon as I boarded the train, I began my letter to my sister. I did it. I sold everything and am on my way to..."

Below the text is a network diagram with five nodes: Hiroko, Yuta, Hana, Taiki, and Yuma. The nodes are connected by blue arrows forming a cycle: Hiroko → Yuta → Taiki → Yuma → Hana → Hiroko.

2. ペアとの交流

ペアとなったサマーは、日本語習得を志す、とても真面目で温かい女性です。初日に PC 画面越しに LINE アカウントを交換し、週 1 回の Zoom ミーティングや LINE メッセージを通じて、交流を続けています。最初はぎこちなかった会話も、回数を重ねるにつれ弾むようになりました。当初は互いの日常生活や家族、趣味についての会話が主でしたが、シンポジウムでの発表が近づくにつれ、互いの発表内容に関する情報交換やサポート、ディスカッションが主になりました。本番直前は、一緒にスピーチ練習を行い、英語表現やマナーについてアドバイスをもらいました。

こうした生の英語交流を通じて、自分の英語発信能力が向上することはもちろん、ペア自身やペアを通して生きたアメリカ社会に触れています。そうした貴重な体験が、英語をより学ぼうと思うモチベーションにもつながっています。何より純粋に楽しいペアとの交流は、本プロジェクト終了後も大切にしたいと考えています。

3. Symposium for Scholarship and Creativity での発表

シンポジウムでの発表内容は、音楽が社会に与えた影響について、日米それぞれ直近 50 年を紹介するというものです。

現地時間 4 月 8 日 PM1:00~1:50 のプレゼンテーションは、日本時間では翌日 AM2:00~2:50 と深夜の開催でした。仮眠を取って臨みましたが、緊張と興奮の入り混じった状況で正直あまり眠れなかったのを覚えています。本番 30 分前に Mott 先生と Zoom でつながると、現地のペアたちの興奮した様子も伝わってきて、少し緊張がほぐれました。

現地は対面でのプレゼンテーションで、教室には約 40 名の学生や教師が集まりました。最初はアメリカのメンバー 5 人から 1970~2020 年の日本に関する発表があり、続いて私たち日本人参加者から同時代のアメリカに関する発表を行いました。特に聴衆は日本の音楽に馴染みがないため、日本の音楽に関する発表では音源も多く紹介されました。聴衆は音楽によってリズムを取ったり、時折笑ったりと非常にリラックスした雰囲気の中で発表に耳を傾けてくれました。

自分たちの発表時の現地の雰囲気は正直つかみづらかったですが、発表後に Mott 先生やペアから聴衆へ内容もよく伝わったことや、興味をもって聞いてくれたことを聞いて、安心しました。

●SSC のプログラムを抜粋掲載

メンバーや自分の名前があると現実味が伴い、緊張感も高まりました。

Oral Presentations

1-1:50 p.m.

GUPTA (CBSL 237)

Cultural Changes in Japan and America: Through the Window of Music in 1907-Present

Abigail Campbell, Leah Alsept, Desiree Smith, Somer Freeman, Joshlyn Criswell, Hana Suzuki, Hiroko Okuda, Taiki Yoneyama, Yuma Ono, and Yuta Kobayashi
Sponsors: Hiroaki Kawamura and Greg Mott

The five Japanese and five UF students collaborated on a common global topic through the OSGSP (Ohio Saitama Global Speaker Program). They chose to focus on music culture and its changes reflecting on the socio-cultural and political environment in Japan, US and the world throughout the recent five decades. The students were divided into five groups, each of which consists of one Japanese and US student with an assigned decade ranging from 1970 to 2020. Each group researched the music of their given decade in the opposite country in which they live, using each other, along with family and friends, as resources. Through this semester long cultural exchange, we have collected musical trends from Japan and America over five decades. This presentation will share the results of these collaborative research activities between Japan and the US with Japanese students participating in the presentation via zoom.

●SSC 発表時の現地の様子

現地では対面での発表が行われました。



以上